



# 川口の教育



オンラインでの授業公開（令和2年7月14日～29日 川口市立鳩ヶ谷小学校）

## 第616号

### 【目次】

指導の手引き	「特別支援教育の充実に向けて（より良い支援に向けた体制づくり）」 川口市教育局指導課指導主事 浅香 友文 . . . . . (2)
私の教育実践	「新学習指導要領と社会にかかわる子供を育てる学習」 川口市立鳩ヶ谷小学校教諭 千守 泰貴 . . . . . (3)
第1期フィンドレー高校長期留学生 市長表敬訪問・帰国報告会	. . . . . (4)～(5)
教育ルポ	. . . . . (6)

題字 川口市教育委員会教育長 茂呂修平

# 7

月号

—令和2年—

編集・発行 川口市教育委員会

## 特別支援教育の充実に向けて（より良い支援に向けた体制づくり）

川口市教育局学校教育部指導課指導主事 浅香 友文

### 1 はじめに

特別支援教育は、幼児児童生徒の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、適切な指導及び必要な支援を行うものである。今回、改訂となった新学習指導要領においては、これまで総則のみに記載されていた特別支援教育の対象となる児童生徒に関する内容が、各教科の解説にも記載された。このことから、各教科においては、発達障害がある、または、あると思われる児童生徒にも分かりやすい授業ができるよう教材研究を行うことが必須となる。各学校においては、一人一人の困難さに応じたきめ細かな指導がなされるようお願いしたい。

### 2 特別支援教育コーディネーターの役割について

幼児児童生徒の支援は、担任の気づきや保護者の相談の中で、課題を捉えることから始まる。そして、その課題を解決するために、担任をはじめとする様々な人や関係機関と連携し、よりよい支援につながるようコーディネートすることである。特別支援教育コーディネーターの主な業務としては、以下が考えられる。

- (1) 校内支援委員会での推進役
- (2) 校内の関係者や関係機関との連絡調整
- (3) 担任への支援（幼児児童生徒の行動観察）
- (4) 保護者に対する相談窓口
- (5) 巡回相談や専門家チームとの連携

どれも大切な業務であるが、今回は(3)の、日々子供たちと直接関わることになる担任への支援に焦点をあてる。

コーディネーターは、担任から相談を受けた際、相談者の気持ちに寄り添って話を聞くこと、併せて、幼児児童生徒に対する特別支援教育の視点を踏まえた授業観察ができること、より一層相談内容が充実する。担任への主な支援については、以下のとおりとなる。

- (1) 担任からの教育相談（孤立しないように寄り添って話を聞く、不適応をおこす具体的な教科、生活場面、頻度等を聞き取る）
- (2) 授業観察（どのような課題があるのか、指導・支援法の改善が必要なのか確認する）
- (3) 関係者との情報共有（校内支援委員会、関係職員、管理職への報告等を行う）
- (4) 指導や支援の具体策の構築（プランの作成、指導・支援方法の助言等を行う）
- (5) 校内支援委員会および関係機関との連携について担任と連絡調整
- (6) 対象となる課題に支援の見届け（相談継続の必要性や、新たな手立ての検討を行う）

コーディネーター自身も担任や教科担任であるため、授業の観察を行うことが難しい。各学校においては、コーディネーターが迅速かつ弾力的に授業観察を行えるよう、校内体制の調整をお願いしたい。

また、校内支援委員会を開催するにあたっては、今後の支援の方向性について十分話し合うことが肝要である。その際、これまでどのような支援を行ってきたか、また、今後、学校としてどのような支援を行っていくのか、教育支援プランを活用し、共通理解を深めていくことが重要となる。

### 3 教育支援プランA・Bの作成と関係機関等の連携

学校では特別支援学級に在籍する児童生徒、通級指導教室に通う児童生徒の教育支援プランを作成し活用する。また、通常の学級に在籍し配慮を要する（巡回教育相談や外部関係機関と連携し支援を受けている等を含む）幼児児童生徒に対しては、指導方法や内容の明確化を図るために積極的に教育支援プランの作成をお願いしている。なお、教育支援プランAは、長期的な視点（3年サイクル）で、教育・福祉・医療・労働等の関係機関が連携して支援するための計画で、教育支援プランBは、一人一人の教育的ニーズを具体的な指導・支援に反映させるための計画である。

教育支援プランの活用においては、文部科学省と厚生労働省による「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト報告」で、切れ目のない支援を行うために、本人や保護者の意向を踏まえつつ、学校と関係機関（放課後等デイサービス事業所等）が連携を深め、情報共有を図ることと示された。これらのことから、各学校は共有した内容をプランに反映し、幼児児童生徒へのより一層の支援の充実を図ることが重要である。

### 4 おわりに

学習面や行動面で困っている子供を見つけたら、その困っていることについて丁寧な対応をお願いしたい。そして、管理職のリーダーシップのもと、特別支援教育コーディネーターを中心に組織で解決に取り組み、子供が安心して学校生活を送ることができるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援が行われるようお願いしたい。

【参考資料】（幼児児童生徒の支援にご活用ください）

- (1) 「特別支援学級ハンドブック」（県立総合教育センター）
- (2) 「個別の教育支援計画・個別の指導計画なんでもQ&A」（県立総合教育センター）
- (3) 「理解と支援のための知恵袋」（県特別支援教育課）
- (4) 「教育と福祉の一層の連携等の推進について」（H30.5.24 通知）



# 新学習指導要領と社会にかかわる子供を育てる学習

川口市立鳩ヶ谷小学校 教諭 千守 泰貴



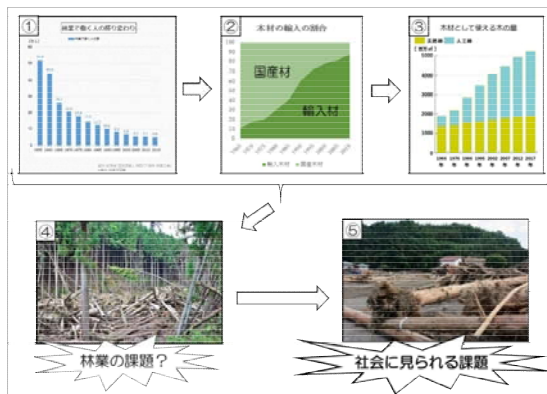
## 1 はじめに

今年度より新学習指導要領が全面実施を迎えた。本校は、平成30年度の全国小学校社会科研究協議会埼玉大会の会場校として、平成29年度から先行研究を行ってきた。これまで研究させていただいたことの一部をこの場をお借りし、伝えさせていただく。

## 2 社会に見られる課題の解決に向けて構想する学習

急激に変化する社会に対応する子供を育てるため、平成29年に小学校学習指導要領が改訂された。改訂のポイントは数多くあるが、社会科では「社会に見られる課題の解決に向けて構想する学習」が各学年の内容の取扱いに位置付けられたことが大きな変更点の一つである(表1参照)。この学習は、端的に言えば、世の中の諸課題の解決に向けて、子供たちが学習してきたことを基に考えていく学習である。

提示した。子供たちは、読み取った情報と既習事項である森林の働き(土砂崩れの防止)の想起によって、森林と全国各地における豪雨災害の発生との関係に気付いた。このように、学習してきたことを生かすことで、④「手入れが行き届かない森林が増加すること」は即ち、⑤「国民生活に大きな影響を及ぼす切実な課題であり、解決しなければならぬ課題」であると把握させた。



【図1 資料提示の順序】

また、解決に向けて構想する場面では、林野庁が始めた「木づかい運動」を事例として提示した。まず、取組の内容や、様々な立場の人たちの関わりについて調べ、関係図にまとめた。関係図にまとめた後、「誰が、どのようにして、森林資源を守っていったらよいか？」と発問し、自分の考えをまとめる活動を行った。子供は、様々な立場の人たちが、どのように行動するべきか考え、「木づかい運動」の取組やこれまでの学習を基に解決策を構想した。



【写真1 「木づかい運動」の関係図】

学年	内 容	
3	(3)	「地域の安全を守る働き」
	(4)	「市の様子の移り変わり」
4	(2)	「人々の健康や生活環境を支える事業」
	(3)	「自然災害から人々を守る活動」
	(4)	「県内の伝統や文化、先人の働き」
5	(2)	「農業や水産業における食料生産」
	(3)	「工業生産」
	(4)	「産業と情報との関わり」
	(5)	「国土の自然環境と国民生活との関連」
6	(1)	「政治の働き」
	(3)	「グローバル化する世界と日本の役割」

【表1 新学習指導要領における「社会に見られる課題の解決に向けて構想する学習」の位置付け】

## 3 実践のポイント

実践のポイントとなる場面は、以下の2つである。

- i 社会に見られる課題を把握する場面
- ii 解決に向けて構想する場面

以上の場面について、第5学年内容5(5)「わたしたちの生活と森林」の学習を事例に紹介する。

本実践では、「手入れが行き届かない森林が増加することによって、災害が発生していること」を社会に見られる課題として設定した。この課題を把握できるようにするために、①「林業で働く人の移り変わり」②「木材の輸入の割合」③「木材として使える木の量」のグラフを

## 4 おわりに

「社会に見られる課題の解決に向けて構想する学習」は、子供たちがよりよい社会の実現に向けて努力や協力をしようとする意識をもつことにつながる大切な学習である。これからの明るい未来をつかっていく子供たちを育てるためにも、子供たちが、「社会にかかわる」授業づくりをしていかなければならない。

最後に、本実践は清水健治校長先生、岡田大助教頭先生をはじめとする多くの先輩方のご指導と、岩田直代校長先生をはじめとする鳩ヶ谷小学校の教職員の皆様と共につくり上げた実践であることを伝えさせていただく。



# 第1期フィンドレー高校長期留学生 市長表敬訪問・帰国報告会

令和2年6月15日（月） 市長公室

第1期留学生 川口市立高等学校 3年 伊藤 万莉 さん  
3年 下園 彩乃 さん

「フィンドレー高校長期留学事業」は、川口市立高校の生徒が、本市と教育分野に関する協定を締結しているアメリカ・フィンドレー高校へ9カ月間留学する長期留学制度で、その第1期生として、伊藤さんと下園さんが昨年の夏に渡米しました。このたび、2人が留学を終えて帰国したことから、市長を表敬訪問して報告を行いました。【留学期間：R1.8.20～R2.3.28 コロナウイルス感染症拡大の影響により予定より2ヶ月早く帰国】



2人は、約50ページにわたる『報告書』をもとに、授業や学校行事、クラブ活動を通じた現地高校生との交流や、ホストファミリーがくれた温かな家族愛、そして、おいしくてたくさん食べたアメリカンフードについて、市長に報告しました。



下園さんは「人として成長する」ことを目標に渡米した留学生活で、たくさんの人々と触れ合い、自分が見ていた世界が広がり、考え方が180度変わる経験ができたことと成果を報告。今後は、フィンドレーで学んだ自己主張の大切さを、学校生活で実践しながら、色々なことに挑戦していくと語ってくれました。

伊藤さんは、当初「英語だけ話せるようになればいい」という気持ちで渡米。しかし、留学先で出会ったフィンドレーの人たちの人柄に魅せられ、これまでの自分と向き合うことができ、自分の未来に希望を持たせてくれる経験になったことと成果を報告。将来は、英語に関わる仕事をしたいと話してくれました。

市長からは、異国での様々な違いに苦慮しながらもそれを楽しめたことはすごいことである。これからこの経験を色々なところで生かしてもらいたいと、激励のお言葉をいただきました。

留学生帰国後の5月、フィンドレーのMuryn市長から奥ノ木市長宛に、留学生の写真とともに書簡が届きました。



OFFICE OF  
THE MAYOR  
CHRISTINA M. MURYN

Brian A. Thomas, P.E., P.S.  
Service Director  
Paul E. Schmelzer, P.E., P.S.  
Safety Director

May 14, 2020

Dear Honorable Mayor Okunoki,

I wanted to send a brief note to let you know that your friends in the City of Findlay, Ohio, have been thinking of you all in the City of Kawaguchi. We have been fortunate that in Hancock County, where Findlay is located, to only have 31 confirmed cases and 1 death related to COVID-19 at this time. I am sorry to hear your community has had a few more.

In late March, we said farewell to Ayano (Ms. Shimozono) and Mari (Ms. Ito). I heard that they were able to return to their home smoothly and soon resumed their lives at Kawaguchi Municipal High School. Our city misses them greatly. They were wonderful ambassadors and made many friends through basketball, dance, and many other high school and community activities.

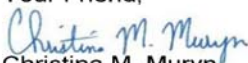
Findlay High School selected two promising youth, Mr. Kale Fuller and Ms. Megan Taber, as our first ambassadors to your city. Both of them have been studying Japanese and are excited about visiting your city in 2021.

It gives me distinct pleasure to know that our friendship activities go well beyond the high school exchange. Kawaguchi Rotary Club and Findlay Rotary Club, of which I am a member, are working together to support the Rotary International breast cancer prevention project in Nepal. We were all disappointed that the March 100 year Rotary Celebration was cancelled, and our friends were not able to join us. We look forward to rescheduling a visit and celebrating our communities' resilience through these difficult times together.

In Findlay, we have many cherry trees to commemorate our friendship with Japan. A number of those trees are located directly outside my office. Each day over the last few weeks they have been in bloom have brought me great joy, not only from their beauty but knowing that our communities have a strong friendship that will last well beyond this pandemic and bring many new opportunities to both of our communities for generations to come.

If there is anything the City of Findlay can do in these challenging times, please do not hesitate to contact me.

Your Friend,

  
Christina M. Muryn  
Mayor

書簡には、初の長期留学生として、両市の架け橋となった2人に思いを馳せる市長のお気持ちと、来年度フィンドレー高校から川口市立高校に留学予定の2人の生徒について綴られています。文末には、市長のオフィスの外に見事に咲き誇る両国の友好を記念する桜の美しさとおし、川口市とフィンドレー市の交流が、このパンデミックを乗り越えて今後も輝かしく持続し、私たちの次世代の社会に、多くの新しい機会をもたらす強き友情と大きな希望となることを願うお気持ちが寄せられています。



Ms. Ito and Ms. Shimozono by the Friendship City Rock at Riverside Park



Mari Ito, Mayor Muryn, and Ayano Shimozono at the Annual Friends of Findlay Picnic



# 教育ルポ



川口市マスコット「きゅぼらん」

6月中旬から、分散登校期間が終わり、通常の登校となりました。感染症対策を講じながら、様々な取組が行われました。

## 6月・7月 各学校の様子



ソーシャルディスタンスへの配慮をしながら発育測定【本町小】



密の状態を避けながら歴史教室【戸塚南小】



ビデオレターによる離任式【鳩ヶ谷小】



生徒が自分で使った机を消毒【陽春分校】



ソーシャルディスタンスを意識した話合い【里小】



救急法の学習【神根東小】